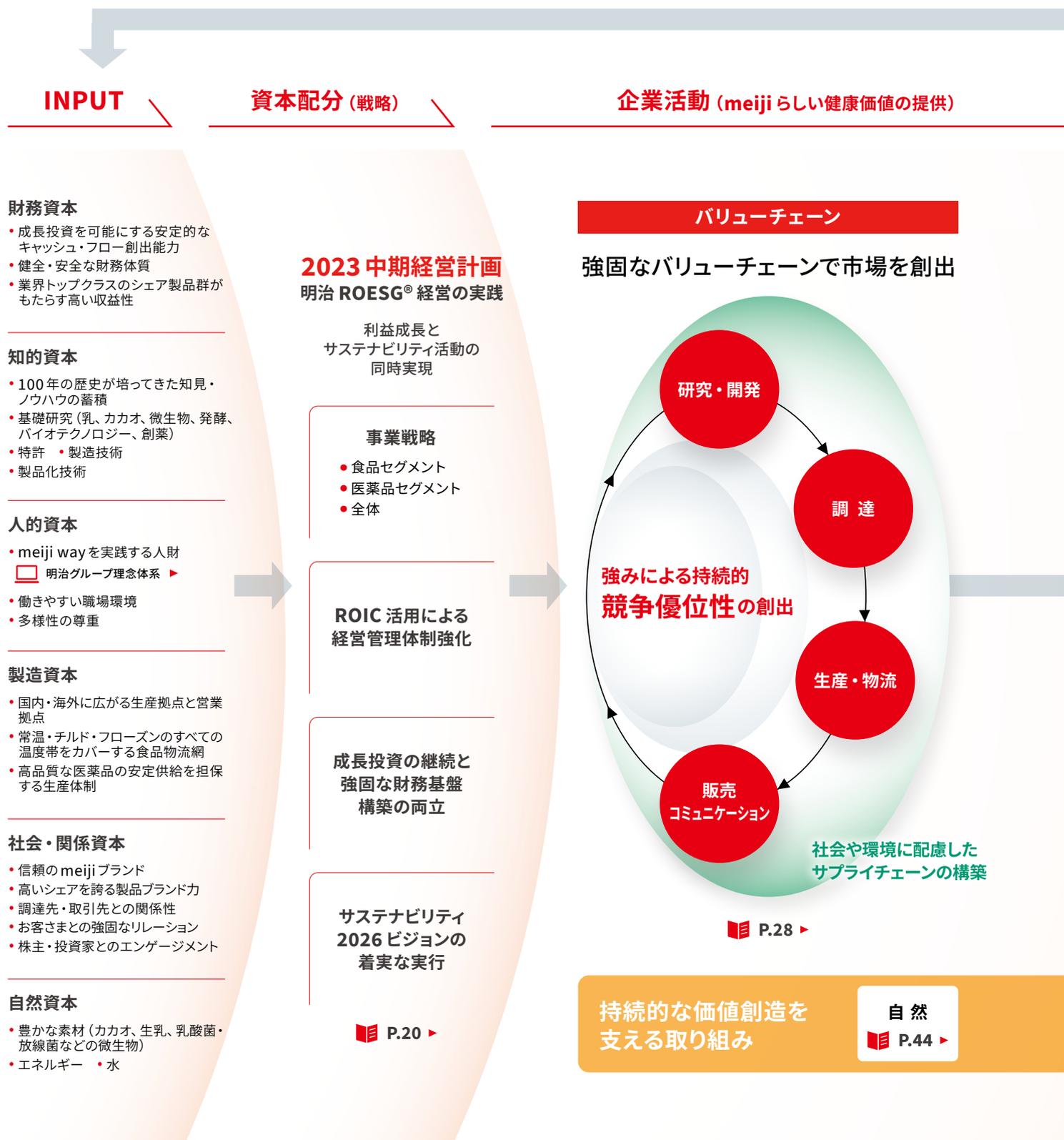


明治グループの価値創造プロセス

meiji ならではの戦略とバリューチェーンによって
豊富な資本から健康価値を創造し、ビジョンを実現



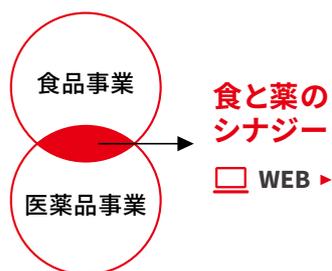
明治グループは、長年にわたって蓄積した豊富な資本を、「明治ROESG[®]*経営」によって戦略的に配分し、自社の強みを活かしたバリューチェーンによって「meijiらしい健康価値」を生み出しています。このプロセスをさらに進化させていくことで、持続的に価値創造できる企業を目指します。

*「ROESG」は一橋大学教授・伊藤邦雄氏が開発した経営指標で、同氏の商標です

OUTCOME

OUTPUT

健康栄養の向上につながる
多様な製品群



P.08 ▶

食と健康に関わる
有用な情報提供

- 健康向上に資する機能
- 質の高い栄養
- 新たな食文化の提案
- 疾患・予防の啓発
- 医薬品適正使用の推進
- 学術データ・論文

P.29 ▶

人・社会・地球の
すべてが健康である
「より良い未来」を実現

こころとからだの健康

豊かな社会

自然との共生

人

P.52 ▶

イノベーション

P.60 ▶

ガバナンス

P.71 ▶

持続的な価値創造の原動力

明治グループは、「meijiらしい健康価値」を提供し、新たな市場を創出することで持続的な成長を目指しています。その基盤となる「研究・開発」「調達」「生産・物流」「販売コミュニケーション」のバリューチェーンにおいて、多様な強みを有しています。この強みをもとに、社会や環境に配慮しながら meiji ならではの競争優位性を築き、健康に貢献する多様な製品や有益な情報を提供することで、企業価値をさらに向上させていきます。

強固なバリューチェーンで市場を創出

明治グループの特徴・強み

機能横断的な研究開発と知的財産マネジメント

- 蓄積した基礎研究による知見（乳、カカオ、微生物、発酵、バイオテクノロジー、創薬）
- 優れた製品化技術、製造技術、それに伴う知的財産管理
- 食・薬の知見が融合された研究開発力

持続性とコスト優位性を有する調達網

- カカオ農家や酪農家との協働
- 関連団体との連携
- グローバルサプライチェーンによるコスト競争力と安定調達の両立

優れた生産技術と品質管理

- 品質管理体制（製品の安全・安心の確保）
- 全温度帯をカバーする物流網（常温・チルド・フローズン）
- 医薬品の優れた生産技術、バイオ技術、グローバル生産網

高い市場シェアを確立するマーケティング力と信頼

- 取引先、お客さまとの双方向コミュニケーションと強固なリレーション
- 長年蓄積した meiji ブランドへの信頼
- 乳幼児から高齢者まで多様な健康ニーズに対応した製品ラインアップ

社会や環境に配慮したサプライチェーンの構築

- 事業活動とサステナビリティ活動の融合を目指した独自の経営目標「明治 ROESG」へのコミットメント
- 気候変動 (TCFD)、生物多様性 (TNFD) に基づく分析・開示の推進
- 「明治グループサプライヤー行動規範」遵守の徹底

強みによる持続的競争優位性の創出



新たな発想で、常に一步先を行く価値を創り続ける

明治グループは、デジタル技術などによってもたらされる先進的な知見を取り入れ、既存事業をさらに進化させています。この絶え間ない挑戦が、「食」と「薬」の分野で常に一步先を行く、「meijiらしい健康価値」の創出につながっています。



双方向コミュニケーションによるマーケティング変革

一人一人に最適な情報提供で、乳幼児とその家族のイキイキとした毎日に貢献

健康価値を持つ食品が当たり前になるなか、お客さまに選ばれ続けるには、独自素材や機能性を訴求するだけでなく、お客さま目線に立って「お客さまが必要なもの」を常に提供していかなければなりません。私たちは、「お客さまの状態に合った商品や情報を提供すること」が求められていると考え、よりお客さまに寄り添ったマーケティング活動への変革を進めています。

その一環として、乳幼児のお子さまを持つ保護者の方々との接点を強化するアプリを開発しています。このアプリは利用開始時に「きろく」「まなぶ」「そうだん」の3つの機能を搭載します。育児記録を入力することで月齢に応じた栄養情報が得られるほか、当社の栄養士に直接相談することができます。ここには、病院や店頭、「赤ちゃん相談室」を通じて、長年、専属栄養士が栄養相談に応じてきたノウハウが活かされています。単なる情報提供にとどまらず、お子さまとその家族の育児生活に寄り添ってサポートしていきます。

今後、顧客コミュニケーションのノウハウとデジタル技術を活用した新たなマーケティング活動を他のカテゴリーでも展開することで、お客さまとの信頼関係を強固にして商品LTV※を向上させるとともに、価値ある情報を提供し続け、社会課題の解決にもつなげたいと考えています。

※ Life Time Value : 顧客生涯価値



デジタル技術を活用し、一人一人に合った情報提供と双方向コミュニケーションを通じて、健康価値を進化するサイクル

デジタル技術で感染制御に貢献

カナダ・BlueDot社と提携し、最新の感染症情報を医療現場に提供

医薬品業界では近年、人工知能による創薬の効率化や、臨床開発におけるリアルワールドデータの利用など、デジタル技術が急速に浸透しています。また、医薬品では満たされない医療ニーズに対応するため、デジタル治療などの「ビヨンド・ザ・ピル（医薬品を超えた領域）」に関する取り組みも増加しています。

明治グループも現在、デジタル技術を駆使し、予防や予後の領域も含めたソリューションの提供に取り組んでいます。例えば、感染症の予防では「情報」が大きな価値を持っています。そこで2021年にカナダのBlueDot社と契約し、世界中の感染症に関する情報をタイムリーかつ網羅的に入手できる体制を構築するとともに、医療関係者に向けた感染症レポートの提供やCOVID-19感染者数の推定に関する論文の投稿などにも取り組んでいます。

さらに今後は、感染症の流行予測も視野に入れています。予測プログラムの開発や新たなデータソースの確保を進め、感染拡大情報をタイムリーに提供できるよう、高度専門人材の確保や、アカデミア、異業種との協業にも取り組んでいます。明治グループはこのような取り組みを通じて、医療ニーズの充足や公衆衛生の維持発展に貢献し、感染症の脅威という社会課題の解決を目指します。

※ Meiji Seika ファルマ(株)が運営する医療従事者向けの会員制サイト



Meiji Medical Net※でBlueDot社のレポートを掲載



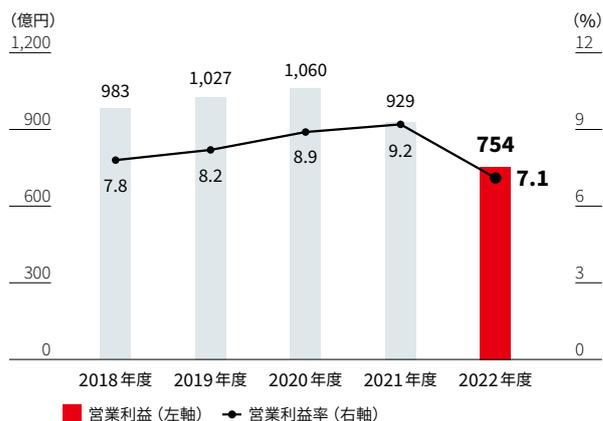
BlueDot社のレポート

財務・非財務ハイライト (主要指標の推移)

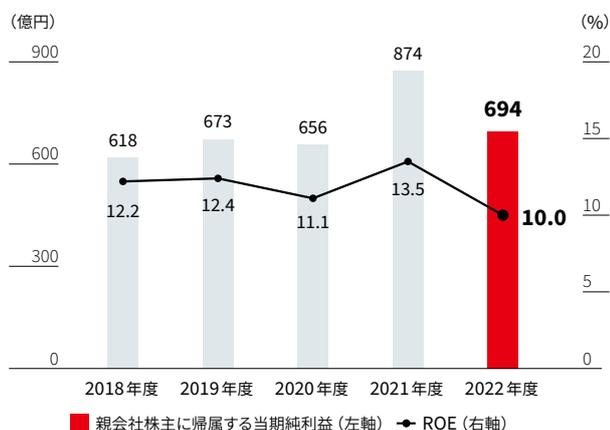
売上高 ※1



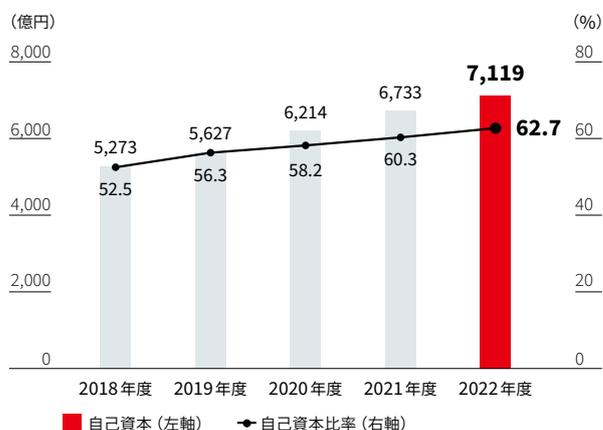
営業利益 / 営業利益率



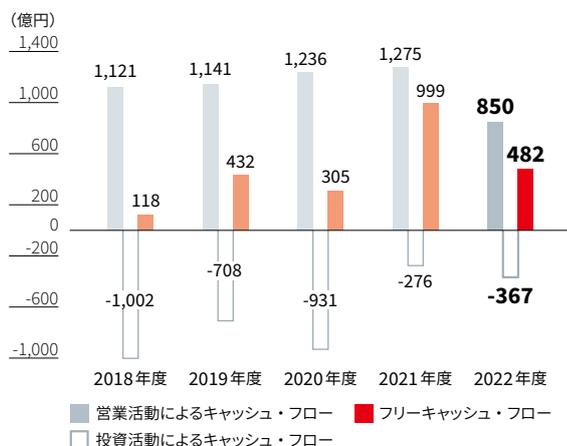
親会社株主に帰属する当期純利益 / ROE



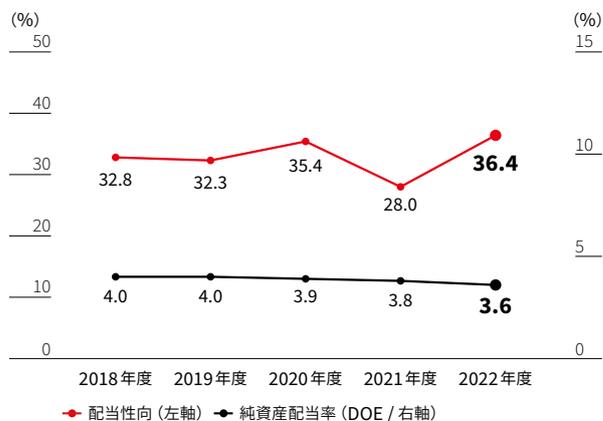
自己資本 / 自己資本比率



キャッシュ・フロー



配当性向 / 純資産配当率 (DOE)



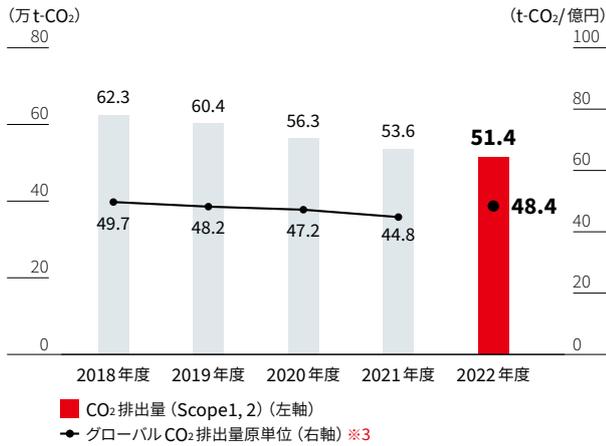
※1 2021年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用

※2 明治グループ(国内明治グループおよび海外生産系13工場<2019年度までは12工場、2020年度は13工場、2021年度は14工場>)、原単位は連結売上高から算出
2018年度より、KMバイオロジクス(株)熊本工場を集計対象範囲に加え、2019年度より、同社の全拠点を範囲に加えています。

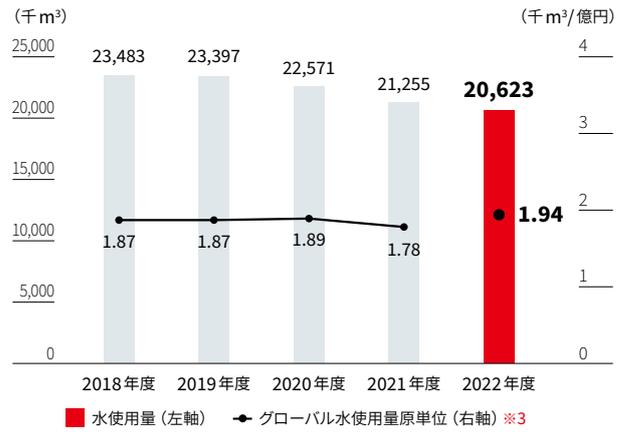
※3 2022年度の原単位算出に使用している売上高には、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用
2021年度以前の原単位算出に使用する売上高には同基準等を適用していません。

※4 人材マネジメントにフォーカスし、農場の作業改善や経営管理技術の向上を通して酪農に関わる人の成長を支援する活動

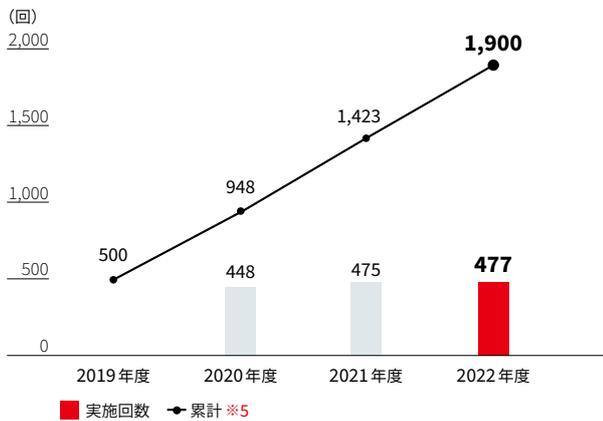
CO₂排出量 (Scope1, 2) / CO₂排出量原単位 ※2



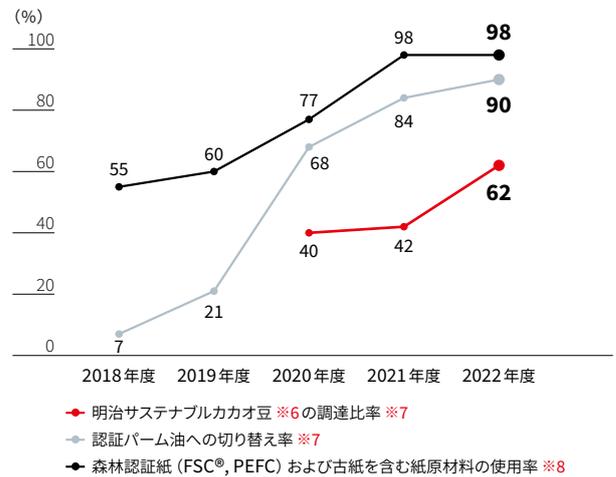
水使用量 / 水使用量原単位 ※2



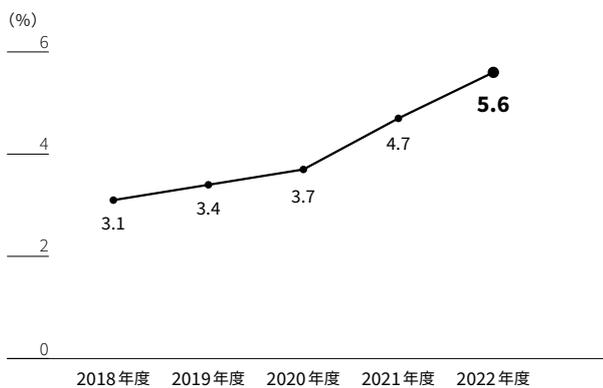
MDA (Meiji Dairy Advisory) ※4 による酪農家支援実施回数



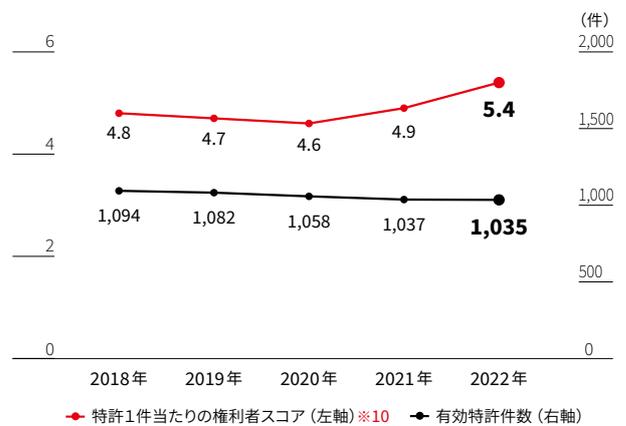
サステナブル調達比率



女性管理職比率 ※9



特許1件当たりの権利者スコア / 有効特許件数 ※9



※5 2019年度までに累計で500回実施

※6 農家支援を実施した地域で生産されたカカオ豆

※7 (株) 明治および傘下の国内・海外グループ会社

※8 2020年度までは国内グループ会社が対象 (2019年度よりKMバイオロジクス (株) を含む)。2021年度より国内・海外グループ全体が対象

※9 明治ホールディングス (株)、(株) 明治、Meiji Seika ファルマ (株)、KMバイオロジクス (株) の4社

※10 (株) パテント・リザルトにより提供される特許競争力の指標 (Biz Cruncher®を利用)